

《心理学部》

4. 進級・卒業

1 進級

(1) 進級要件

「第3年次への進級に関する内規」に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。

2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した学生は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。

1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。

なお、1セメスター休学した場合でも次の学年に進級しますが、2セメスター連続して休学した場合は、原級にとどまります。

(2) 進級時期

進級時期は、3月(2年次秋学期)のみです。2年次春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中で3年次へ進級することはありません。

(3) 進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

2 卒業

(1) 卒業要件

大学を卒業するためには、次の2点を満たさなければなりません。

- ・ 通算して4年(8セメスター)以上在学した者(休学期間は除く)。
- ・ 所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者。

注) 所定の128単位(卒業に必要な単位数)については、各学科のカリキュラム概要を参照してください。4年次修了時点で条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2) 学位の授与

卒業要件を充足した者は、「愛知学院大学学則」第37条により学士(心理学)の学位が授与されます。

(3) 卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。

- ・ 3月卒業
4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者。
卒業可能者には、3月上旬に保証人宛に通知します。
- ・ 9月卒業
4年次春学期修了時点で、4年(8セメスター)以上在学し、卒業要件を充足した者。
卒業可能者には、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4) 卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。

次年度以降の卒業に関する調査を行います。「卒業に関する調査」を履修登録期間までに教務課へ提出してください。

3 進級・卒業要件充足状況の確認方法

WebCampusで、履修登録をした科目の進級・卒業要件充足状況を確認することができます。

カリキュラム概要

心理学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	グレーゾーン 16 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ各②			
教養基幹科目		20単位 (注1)		教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
	人文系		4単位	哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	主題系		4単位	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各② 仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
外国語科目 (注2)	第1外国語	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
	第2外国語		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ、スペイン語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)			
	文化事情		2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、韓国文化事情、スペイン文化事情 各② (1科目を選択)			
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計		36単位	(注1) 「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 (注2) 外国人留学生の外国語科目の履修はP.39参照				

グレーゾーン（16 単位）

分 野	要件単位	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
グレーゾーン	特別支援 教育に関 する科目 (注3)		障害者教育史、知的障害者の心理・生理・病理、知的障害者教育論、病弱者の心理・生理・病理、肢体不自由者教育論、病弱者教育論、視覚障害教育総論、聴覚障害教育総論、重複障害・軽度発達障害教育総論 各②		
	その他	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱ、英語読解Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①	英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現Ⅲ・Ⅳ、英語読解Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①		
		ドイツ語 中国語 フランス語 (注4) 韓国語 スペイン語	Ⅰ (基礎)・Ⅱ (基礎) 各①		
			Ⅲ (読解)・Ⅳ (読解)、Ⅲ (表現)・Ⅳ (表現)、Ⅲ (総合)・Ⅳ (総合)、 会話Ⅰ・Ⅱ、会話Ⅲ・Ⅳ (韓国語のみ) 各①		
			スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①		
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		「教養教育科目」の「教養基幹科目」うち20単位を超えて修得した科目の単位 「専門教育科目」について、76単位を超えて修得した科目の単位、「単位互換」で修得した単位			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位 (24単位まで修得可) ※グレーゾーンの要件16単位を超えた場合は、8単位まで④「基幹・ 展開・卒業研究」に算入される。			

(注3) 教職課程受講登録者のみ履修可能。18単位のうち、16単位まで卒業要件に入れることができる。(注4) フランス語はⅠ・Ⅱ (基礎)、Ⅲ・Ⅳ (総合)のみ開講

カリキュラム概要

専門教育科目（76単位）

分野		要件単位		1年次		2年次		3年次		4年次	
		内訳									
専門基礎科目		20単位	講義科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、認知心理学Ⅰ(知覚・認知心理学) 各②							
				発達心理学Ⅰ、人格心理学Ⅰ(感情・人格心理学)、社会心理学Ⅰ(社会・集団・家族心理学)、ストレスマネジメント入門 各②							
				心理学研究法 ②							
専門基幹科目		44単位 A	講義科目	学習・言語心理学 ②							
				認知心理学Ⅱ、発達心理学Ⅱ、人格心理学Ⅱ、社会心理学Ⅱ、生理学Ⅰ(人体の構造と機能及び疾病)、生理学Ⅱ 各②							
				神経・生理心理学、生理心理学、心理学史、スポーツ心理学、ポジティブ心理学、カレントトピックスa・b・c・d・e・f 各②							
				調査法Ⅰ・Ⅱ 各②							
			演習科目B	ストレスマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ 各②							
			その他	インターンシップ ②							
心理学実践 専門展開科目		28単位 自専攻分野20単位以上を含むこと	4単位	講義科目	臨床心理学Ⅰ(臨床心理学概論)、多職種連携論、健康・医療心理学 各②						
					臨床心理学Ⅱ(心理学的支援法)、司法・犯罪心理学、精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱ、発展講義a・b 各②						
			科目B	演習	心理検査演習Ⅰ・Ⅱ、面接法・介入法(心理的アセスメント)、人格・臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ 各②						
					4単位	講義科目	文化心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学Ⅰ(教育・学校心理学)、教育心理学Ⅱ、障害者教育総論、肢体不自由者の自立活動の理論と実際、肢体不自由者の心理・生理・病理、知的障害児指導法 各②				
			異文化理解、ケアマネジメント、発展講義c・d・e・f・g・h 各②								
			科目B	演習	発達・教育心理学演習Ⅰ・Ⅱ、社会・産業心理学演習Ⅰ・Ⅱ 各②						
					4単位	講義科目	産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ、データサイエンス入門、感性工学、消費者行動論 各②				
			製品評価の心理学、多変量解析Ⅰ・Ⅱ、行動経済学、発展講義i・j 各②								
実験心理学演習Ⅰ・Ⅱ、情報ビジネス心理学演習Ⅰ・Ⅱ、デジタルデザイン演習 各②											
専門総合科目		12単位	科目B	演習	卒業研究 ⑥						
			演習科目	心理学実験Ⅰ・Ⅱ 各②							
				プレセミナー、総合研究演習Ⅰ 各②							
				総合研究演習Ⅱ・Ⅲ 各②							
合計		76単位	※76単位を超えて修得した単位は「グレーゾーン」に算入される。								

卒業要件に算入されない科目

分野	単位	1年次	2年次	3年次	4年次
公認心理師 専用科目	卒業要件に 算入しない		公認心理師の職責 ②		
				福祉心理学、関係行政論、心理演習 各② 心理実習Ⅰ ①	
					心理実習Ⅱ・Ⅲ 各①
自由選択 科目		キャリア・デザイン ②			
		サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域連携学A・B・C・D 各②			
				長期インターンシップ ④	

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

地域・社会連携コースの説明 ～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

地域・社会連携コースは学部授業とは別に社会人基礎力を身につけることを目的とし、1年次より設定したAGU独自のカリキュラムです。どの学部の学生も自由に参加できます。

1 地域・社会連携コースの特色

●身に付く能力

経済産業省が提唱している、人生100年時代に求められるスキル「社会人基礎力」を身につけ、仕事での活躍はもちろん、生活する地域でも活躍する「地域貢献」型の人材を目指しましょう。

●社会人基礎力とは

●前に踏み出す力(アクション) ～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む～

主体性:物事に進んで取り組む力

働きかける力:他人に働きかけ巻き込む力

実行力:目的を設定し確実に行動する力



●考え抜く力(シンキング) ～疑問を持ち、考え抜く～

課題発見力:現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力:新しい価値を生み出す力



●チームで働く力(チームワーク) ～多様な人々とともに、目標に向けて協力する～

発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力:相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性:意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力

規律性:社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力:ストレスの発生源に対応する力



参考:経済産業省 「人生100年時代の社会人基礎力」

●コーディネーターによる学生支援

様々な協力者との連携により授業の内容が構成されています。コーディネーターは授業の担当教員でもあり、プログラムの調整、学生の指導を行います。各授業について、履修相談から活動中の困りごとなど適宜、相談にのります。

2 科目の説明

I. サービスラーニング実習Ⅰ～Ⅳ

行政・非営利団体(NPO)・商店街・企業と連携し様々な社会課題を知り、活動するプログラム。連携先の団体と活動する入門的な実習科目です。事前に専門的な知識を身に付ける必要は無く、活動を通して理解を深めます。例えば、高齢化による認知症の問題を考えるプログラムでは、行政の取組みや当事者との交流を行います。ボランティアの活動、講義形式の授業、グループワーク、打ち合わせなど1つのプログラム(実習科目)の中に様々な活動の形態があります。活動と思考を繰り返しながら社会課題に取り組む意義を理解します。何かやってみたいと思う気持ちがあれば参加できます。

II. 地域連携学A・B

地域・社会の問題に取り組む実務家を講師に招き、講義を行います。実務家とは、非営利団体(NPO)、企業、行政などで働く方々です。講義を聴くだけでなく、グループでのディスカッションや講師との対話から、学びと気づきを共有します。

III. 地域連携学C・D

地域連携学C・Dはフィールドワークを行うプログラムです。地域連携学Cでは、2011年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により避難区域に指定されていた福島県川俣町に赴き、避難解除後の復興の現状を知り、地域の方々との交流を通して学び気づきを得ます。地域連携学Dでは北海道の厚沢部町で、過疎化が進む地域でファームステイをしながら交流を通して町が抱える過疎化の課題解決を考え実践します。

IV. 課題解決型演習Ⅰ～Ⅳ

課題解決に必要な基礎素養を学ぶとともに、NPO、商店街・企業グループ・学校等と連携、実務家の方々と一緒に地域の課題解決プロジェクトを企画立案することを通して、調査、分析、提案という課題解決のスキルの習得を目標とする企画実践型のプログラムです。「名古屋城三の丸地区の関係づくり」プロジェクト等、社会連携センターの支援を受けながら連携先との協議を踏まえ、新しい地域づくりに挑戦します。

地域・社会連携コースの説明

～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

3 地域・社会連携コース科目の詳細

科目名	授業内容	開講年次	単位数	評価方法
サービスマーケティング実習 I～IV	各テーマによるボランティア活動 事前学習 2日～3日の実習 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	1単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
地域連携学A (産官民提携講座IV) 地域連携学B	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 記述式試験	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
地域連携学C・D	地域に赴きフィールドワーク 事前学習 2日～7日現地での活動 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
課題解決型演習 I (産官民提携講座V)	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 グループワークによる発表	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
課題解決型演習 II～IV	各テーマによるプロジェクト演習 調査、グループワーク、発表 ※プロジェクト毎に活動形態は異なります。	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定

4 履修方法について

- ①WebCampusにて募集が案内されたのち社会連携センターのホームページ(<https://scc.agu.ac.jp/>)から申し込んでください。
春(4月)・秋(9月)頃に募集します。
- ②定員を越える応募があった場合は抽選にて人数調整を行います。
- ③受講が決まったら、受講開始までにコーディネーターの連絡に従い受講の準備を進めてください。
- ④履修についての質問は下記アドレスまで問い合わせください。
社会連携センター メールアドレス m-ccc@dpc.agu.ac.jp

諸資格の取得

教職、司書、司書教諭

次の諸資格の取得を希望する学生は、卒業に必要な単位のほかに定められた単位を修得しなければなりません。教職課程は1年次生、司書課程は2年次生、司書教諭課程は3年次生から履修することができますが、別途課程登録料が必要になります。詳細については、それぞれの説明会で説明しますので、希望者は必ず出席してください。
 (『資格課程履修要項』参照)

心理学部心理学科	・中学校教諭1種「社会」 ※ 文学部歴史学科の課程を修得することにより取得可能 ・高等学校教諭1種「公民」 ・特別支援学校教諭1種 ・図書館司書 ・学校図書館司書教諭
----------	---

仏教専修科について

本学に在籍する文学部宗教文化学科以外の宗内生(曹洞宗寺院の子弟)で、在学中仏教専修科に籍を置き、所定の単位を修得し、宗務庁で規定する特殊安居の回数以上を修了したものは、曹洞宗二等教師の補任を受けることができます。詳細は『文学部履修要項』で確認できます。

エクステンションセンター (キャリアセンターキャリア支援課)

皆さんの就職試験および各種資格試験対策を支援するために、エクステンションセンターがあります。エクステンションセンターでは、公務員採用試験対策(国家・地方公務員)をはじめ、行政書士・宅建・簿記・FP技能・証券外務員一種・旅行業務取扱管理者や保育士など専門性が高い講座を開講しています。

他方、秘書やサービス接遇で習得するビジネスマナーやコミュニケーション力は幅広い職業で役立ちます。MOS(Word, Excel, PowerPoint)やTOEIC®は今後必要なスキルです。この機会に始めてみませんか。さらに、SPI(企業が採用試験で用いる筆記テスト)対策まで、皆さんのニーズに応えられる幅広い講座を用意しています。各種資格試験の願書も取り揃えています。

各講座についての詳細は、オリエンテーションで配布している「2025年度 資格取得支援講座案内」を参照してください。またWebCampusのエクステンションセンターのタブから、Webパンフレットも見ることができます。その他、4月上旬には、各専門学校の先生による合同説明会や、各講座ごとの個別説明会もあります。日程等は、大学アプリやWebCampusを通じてお知らせします。なお、ご意見・ご希望などがありましたら日進キャンパスのエクステンションセンター(3号館1階)または名城公園キャンパス事務室までお気軽にお申し出ください。

諸資格の取得

公認心理師コースの選抜について

<選抜の条件>

公認心理師コースに所属するためには、2年次秋学期の終了後に、選抜試験を受ける必要があります。この選抜試験を受けるためには、以下のA・Bの条件をすべて満たしている必要があります。

A:原則として、1・2年次の卒業必修科目および公認心理師科目をすべて単位取得していること

B:1・2年次を通して関連分野でのボランティア等の活動(様々な施設における傾聴ボランティア、介護補助ボランティア等の対人支援に関わるもの)を少なくとも10日間程度体験していること

<選抜人数>

20名程度

<評価基準>

選抜にあたっては、2年次までの全履修科目のGPA、面接の評価、志望動機作文の評価、関連分野でのボランティア等活動報告書*を総合して判断します。

(*ボランティア等活動報告書は、事情によっては、関連分野文献の感想文で代替することができます。)

<実習費>

公認心理師コース所属者は、公認心理師コースの登録および実習にかかる費用(抗体検査、施設実習費、交通費等)として、通常の学納金とは別に3・4年次においてそれぞれ5万円が必要です。

<注意>

公認心理師コースに選抜されたものについても、3年次の「心理演習」の成績不良のものや、3・4年次の「心理実習」での実習態度不良のものは、資格取得に必要な以後の「心理実習」に派遣しない場合があります。

諸資格の取得

国家資格	所轄・認定団体	本大学での取得方法
公認心理師	厚生労働省・文部科学省所管	所定の科目(公認心理師コース)を修得後、本学大学院心身科学研究科心理学専攻(臨床心理学コース)に進み、公認心理師所定の科目を修得するか、所定の施設で実務経験を積むことによって受験資格が得られる。

法人・学会認定資格	所轄・認定団体	本大学での取得方法
臨床心理士	(財)日本臨床心理士資格認定協会	本学大学院心身科学研究科心理学専攻(臨床心理学コース)に進み、所定の科目を修得することで受験資格が得られる。
認定心理士	(社)日本心理学会	本学科で所定の科目を修得し卒業すると、申請することができる。
社会調査士	(社)社会調査協会	本学科で所定の科目を修得することで資格が得られる。

任用資格	所轄・認定団体	本大学での取得方法
児童心理司	厚生労働省	本学科を卒業し、学士の学位を有すること。
児童指導員	厚生労働省	本学科を卒業し、学士の学位を有すること。
児童福祉司	厚生労働省	本学科を卒業し、学士の学位を有すること。 その後1年以上、児童福祉事業に従事すること。
社会福祉主事	厚生労働省	厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目(心理学概論ⅠⅡ、心理学研究法、法学ⅠⅡ、経済学ⅠⅡ、社会学ⅠⅡ、教育学ⅠⅡ)の中から3科目以上の修得で資格取得できる。
身体障害者福祉司	厚生労働省	社会福祉主事の資格を取り、本学科を卒業すること。その後2年以上、身体障害者の福祉に関する事業に従事すること。
知的障害者福祉司	厚生労働省	社会福祉主事の資格を取り、本学科を卒業すること。その後2年以上、知的障害者の福祉に関する事業に従事すること。

その他	主催	備考
色彩コーディネーター	全国服飾教育連合会(A・T・F)	「文科省認定ファッションコーディネート色彩能力検定」に合格すること。
カラーコーディネーター	商工会議所	「カラーコーディネーター検定試験」に合格すること。
福祉住環境コーディネーター	商工会議所	「福祉住環境コーディネーター検定試験」に合格すること。 関連科目:発展講義Ⅰ(住環境の心理学)